

氏名	北崎 悦子		
学位の種類	博士（コーチング学）		
学位記番号	博甲第 9603 号		
学位授与年月	令和 2 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	テニスのグラウンドストロークにおける個人戦術と その指導に関する実践知		
主査	筑波大学教授 博士（コーチング学）	會田	宏
副査	筑波大学准教授	川村	卓
副査	筑波大学教授 博士（コーチング学）	佐野	淳
副査	日本大学教授 博士（教育学）	北村	勝朗

論文の内容の要旨

北崎 悦子 氏の博士学位論文は、テニスのグラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションの個人戦術力およびその指導に関する実践知の実相を明らかにし、個人戦術力の向上に役立つ知見をコーチングの実践現場に提供することを目的としたものである。その要旨は以下のとおりである。

テニスにおいて基礎的な打球技術の 1 つであるグラウンドストロークは、ラリーの攻防を制し、テニスの試合に勝利するために重要な役割を担っている。ストロークにおけるショットの組み合わせは、実践の場ではショットのコンビネーションと言われ、ポイントの獲得に大きく影響している。国際レベルで活躍した選手はショットのコンビネーションを実践知として体系化し、それをゲームの「流れ」の中で戦略的に用いている。また、ショットのコンビネーションに関する指導は、選手との関わり合いの中で、指導者自身が自覚することなく、暗黙的に行われる活動であることが多く、そこでは指導者の思考・決断過程を含めたコーチング活動に関する実践知が働いている。

第 1 章において著者は、上記のような研究の背景を詳細に述べるとともに、国内外におけるテニスのグラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションに関連する先行研究を概観し、ゲームパフォーマンスを記述的に分析し、数量化した研究が多いこと、男子選手を対象とした研究は広く行われているが、女子選手を対象とした研究は少ないことを明らかにしている。また、ショットのコンビネーションの指導に関する研究では、大学生を対象とした指導事例が存在してはいるものの、卓越したテニス選手およびテニス指導者を対象とした研究は存在していないことを明らかにしている。これらを踏まえ、テニスのグラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションの個人戦術力およびその指導に関する実践知の実相を明らかにし、個人戦術力の向上に役立つ知見をコーチングの実践現場に提示することを目的として設定している。

第2章において著者は、国際レベルで活躍した経験を持つ女子テニス選手4名を対象にインタビュー調査を行い、その語りを質的に分析することを通して、グラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションに関する実践知を明らかにすることを試みている。その結果、(1) グラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションでは、相手の行為に対応して自らの行為を決定しようとする行動戦略志向と、自分が事前に決めていた行為ができるように、自らの行為を相手に対応させようとする行動戦略志向の2つのタイプが存在する可能性があること、(2) グラウンドストロークの準備局面におけるボールへの入り方がラリーの優位性、すなわち攻めのストロークを打てるのか、守りのストロークを打たざるを得ないのかを決定する要因の一つであること、(3) いずれの選手もストレートとクロスのどちらのコースへも打てるフォームでボールへ入り、打つ前のタイミングの変化を用いてコースを打ち分けていることなどを明らかにしている。

第3章において著者は、国際レベルで活躍した女子テニス選手を指導した経験を持つ指導者4名を対象にインタビュー調査を行い、その語りを質的に分析することを通して、グラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションの指導に関する実践知を明らかにすることを試みている。その結果、(1) 日本のトップ指導者は、選手の「動き」ではなく「相手との駆け引き」を潜在的に代行することによって、ゲーム状況に応じたショットのコンビネーションができる選手なのかどうかを査定していること、(2) 戦術的思考力の指導では、選手にゲーム状況を適切に認知、予測させるために、選択的に注意すべき情報を具体的に提示する方法と選手自身に見つけさせようとする方法が存在すること、いずれの方法においても、選手の運動感覚を観察しながらサポートしようとしていること、(3) 技術力の指導では、修得させたいショットのコンビネーションをひとまとまりのメロディーとして感じさせようとしていること、男子選手とのゲーム形式の練習や条件を一定に設定しないドリル形式の練習を採用し、カンを顕在化させ、身につけさせたい動きのコツを前意識的に働かせることを通して、技術力を自得させようとしていることなどを明らかにしている。

第4章において著者は、本論文を総括した上で、第2章と第3章で得られた知見、すなわちグラウンドストロークにおけるショットのコンビネーションに関して、日本のトップ選手が獲得した実践知と日本のトップ指導者の有する実践知のそれぞれを手がかりに、さまざまな競技レベルのテニス選手に対する合理的な戦術指導に関する提言を行っている。

審査の結果の要旨

(批評)

北崎 悦子 氏の博士学位論文は、テニスのグラウンドストロークに関して、卓越したテニス選手および指導者の経験の中に埋もれたままになっている知の実相を明らかにし、どのような個人戦術力をどのように修得させれば、ラリーの攻防を制する能力を獲得させられるのかというコーチングの実践現場の問題を解決しようとしている。そのため、コーチング学研究領域の発展に貢献するオリジナリティの高い研究と評価できる。今後、さまざまな競技レベルや年齢の選手とその指導者を対象として検討することによって、研究の広がりが期待される。

令和2年1月28日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。よって、著者は博士(コーチング学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。